

京浜三港の取組について

令和5年2月24日

東京都港湾局 川崎市港湾局 横浜市港湾局 横浜川崎国際港湾株式会社

京浜三港の取組

東京都、川崎市、横浜市は、平成20年3月「京浜港の広域連携強化にかかる基本合意」を締結し、京浜港の国際競争力強化に向け、以下の取組を推進。

京浜港の総合的な計画

- 京浜港の目指すべき将来像の実現に向け、平成40年代前半を目標年次と設定して平成23年9月に策定
- 地方自治法に基づく京浜港連携協議会において策定した計画であると同時に、京浜港各港が策定する港湾計画の基本となるもの

▶ 本計画に基づき京浜三港が更に連携を深め、京浜港の国際競争力強化に向けた各種取組を推進

入港料一元化

京浜三港内を連続して寄港するコンテナ船の入港料を一港分の料金とする（実質一港化）

- 制度開始 平成21年4月
- 令和3年度実績
京浜港全体で、10,742件（2.5億円）

はしけ(コンテナバージ)入港料免除

京浜三港及び千葉港の間でコンテナ貨物を輸送するはしけ（コンテナバージ）について、入港料を免除

- 制度開始 平成20年11月
- 令和3年度実績
京浜港全体で、693件（97万円）

LNG燃料船等へのインセンティブ

国際的な環境対策にいち早く貢献するため、LNG燃料船及びLNGバンカリング船に係る入港料を免除

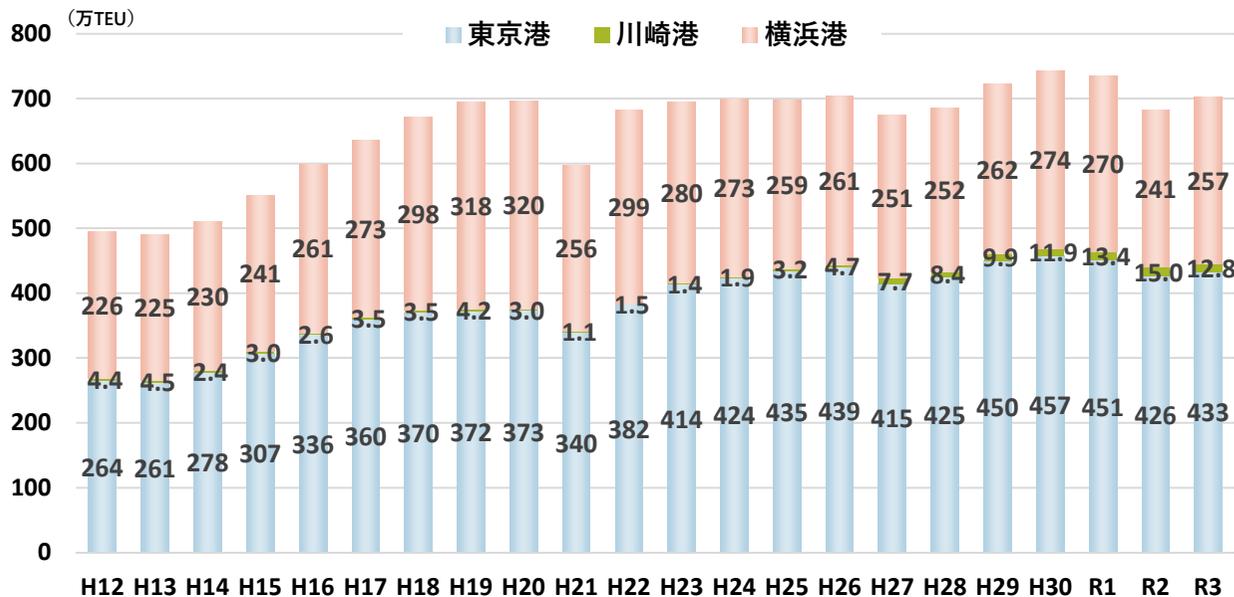
- 制度開始 令和3年4月
- 令和3年度実績
京浜港全体で、8件（50万円）

現在の各港の取組

- 東京港は、輸入港として首都圏や東日本の実需に的確に対応するため、コンテナふ頭の新規整備や再編整備、道路ネットワークの充実・強化など、足元の港湾施設の機能強化を図り、利用者ニーズにきめ細かく対応した使いやすい港づくりを進めている。
- 横浜港・川崎港は、平成28年1月に横浜川崎国際港湾(株)を設立し効果的な集貨施策等を実施するとともに、横浜港は、大水深バースを活用した釜山港・上海港等と対峙するトランシップ港の役割を担い、川崎港は、高機能物流施設の集積を活用した創貨等を特色とした港づくりを進めている。

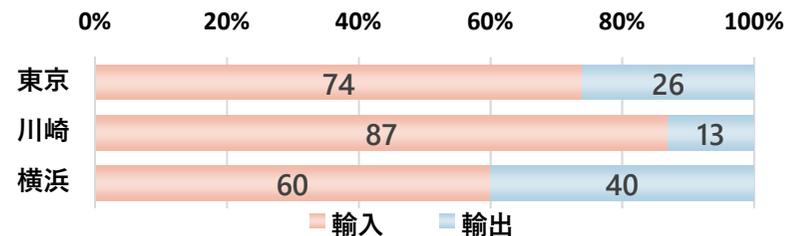
京浜三港の取扱貨物の動向

外貿コンテナ貨物量の推移

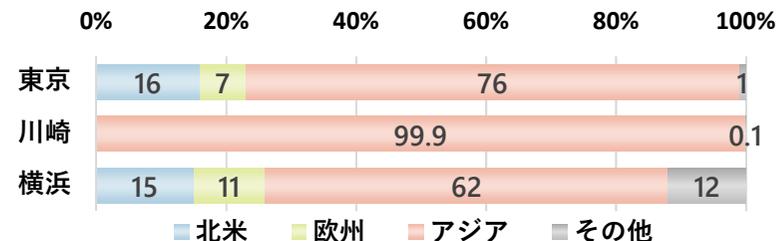


外貿コンテナ貨物量の構成

【輸出入割合（令和3年・トン数ベース）】



【方面別割合（令和3年・トン数ベース）】



外貿コンテナ貨物の主要品目（2021年／上位5品目）

港	方向	(1位)		(2位)		(3位)		(4位)		(5位)	
		品名	取扱量 (トン)	品名	取扱量 (トン)	品名	取扱量 (トン)	品名	取扱量 (トン)	品名	取扱量 (トン)
東京港	輸出	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	2,069,285	産業機械	1,992,825	再利用資材	1,517,338	自動車部品	1,211,008	電気機械	749,171
	輸入	衣服・身廻品・はきもの	4,491,583	電気機械	3,680,906	製造食品	2,557,441	家具装備品	2,262,016	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	2,248,362
川崎港	輸出	化学薬品	51,727	再利用資材	44,667	自動車部品	38,718	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	35,537	取合せ品	13,431
	輸入	家具装備品	598,471	その他日用品	356,987	衣服・身廻品・はきもの	142,799	製造食品	107,276	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	43,415
横浜港	輸出	自動車部品	4,252,195	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	2,201,648	産業機械	1,386,054	完成自動車	873,691	電気機械	768,141
	輸入	製造食品	2,084,110	電気機械	1,812,601	野菜・果物	1,564,979	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	1,302,723	産業機械	1,222,798

上段：品名、下段左：取扱量（トン）、下段右：取扱量全体に占める割合（%）